

女性農業者の経営参画と活動支援

■ 管内女性農業者 ■

(西讃農業改良普及センター 小亀英子 ○谷本国博)

●対象の概要

西讃管内(観音寺市、三豊市)の認定農業者は、令和4年3月末現在で566経営体、そのうち女性は41経営体(共同申請を含む)となっている。現状の農業経営においては、経営主は世帯主の男性で、女性は経営主の意思決定に従うことが多く、農業経営に参画できている女性農業者は少ない状況にある。

●課題を取り上げた理由

農業者の約半数は女性であるが、農業経営及び農村社会において女性の参画は十分とは言えず、女性が地域の農業者と交流する機会も限られ、農村社会で孤立していると感じることも少なくない。一方、近年では、女性農業者が農業経営に参画し、女性ならではの視点を生かした取組を実施することで、より経営発展することや農村地域の活性化が期待されている。

そこで女性農業者の経営参画による経営発展の推進と、生き生きと農村社会で活動できるように、女性農業者のスキルアップや仲間づくりなどの支援に取り組んだ。

●普及活動の経過

1 家族経営協定の作成支援

両市・農業委員会や所内経営改善担当と連携しながら、農業経営改善計画の作成時や経営移譲を迎える農業者に対して、家族経営協定を推進するとともに、経営の中での役割分担や就業条件の明確化、円滑な経営移譲に向けた準備につながるように、協定書の作成を支援した。さらに認定農業者の共同申請への誘導を行い、女性農業者の積極的な経営参画を推進した。

2 研修会等の開催

女性農業者のスキルアップを図るため、要望が多かった販売の強化をテーマとした研修会や販路拡大のための商談会を、令和元年度から令和2年度にかけ実施した。

今年度は、会話のコツをつかんで円滑な人間

関係を構築してもらえるよう、管内の若手女性農業者や就農希望者に参加を呼びかけ、コミュニケーション能力の向上研修を開催した。研修会終了後には、グループに分かれて、研修で学んだ会話術の実践をしながら、お互いの目標や夢について意見交換を行った。

コロナ禍では大人数が集合しての研修会等の開催は難しいため、オンラインや人数制限をしておいた開催となった。

表-1 女性農業者を対象とした研修会の状況

年度	内容
元	○販売力強化セミナー 魅力ある商品企画書の作成
	○みとよ農業女子交流会 学校給食とふるさと納税返礼品についての勉強会と意見交換
	○ワークショップ マルシェ等で消費者に訴えかける対面販売技術の研修と生産物の試食
	○商談会へ参加
2	○商談会に向けた事前セミナーへ参加
3	○コミュニケーション研修 コミュニケーション能力向上セミナーと意見交換 ○スキルアップ研修 農業女子向けウェアの提案(コロナ感染拡大のため中止)

3 女性グループ活動の支援

三豊市内の女性農業者が集まり結成した「みとよ若嫁ファーム」に対して、これまで新商品の試作や販路拡大のための研修会、商談会への参加など、グループ活動の推進と会員の経営発展に向けた支援を行ってきた。

今年度は、役員会や総会で事業計画を検討し、県の事業を活用して、グループの情報発信や食育活動などを計画していたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により開催が難しく中止となった。しかし、グループの新しい会員を募集する取組として、普及センター主催の研修会で、グループ役員から情報発信を行った。

●普及活動の成果

1 家族経営協定及び女性認定農業者の推進

平成29年度から令和3年度の5年間で新規に家族経営協定を締結した経営体は22戸となり、そのうち親子間の締結が11戸、夫婦間が10戸、親子孫間が1戸であった。また、経営移譲等によって協定を見直した経営体は、13戸となった。協定の締結に向けた、家族内での話し合いを通じて、経営内での女性や後継者の位置づけの明確化や、女性の経営参画への意識が向上し、さらにスムーズな経営移譲につながった。一方、同期間の女性認定農業者の新規認定(共同申請含む)は12経営体で、年によってバラツキはあるものの増加傾向とはなっていない状況である。

表-2 家族経営協定締結数と女性認定農業者の認定状況

	H29	H30	R元	R2	R3
家族経営協定新規締結数	3	9	2	5	3
家族経営協定見直し締結数	6	3	0	2	2
新規女性認定農業者数(共同申請含む)	2	6	1	0	3



家族経営協定調印式

2 研修会等の開催

研修会や商談会への参加により、生産物の販売強化に向けたスキルの向上や販路拡大の支援を行うことができた。また、コミュニケーション能力の向上を目的とした研修会では、講義とグループワークを交えながら会話術を学び、その後の意見交換では、研修内容を生かしながら先輩農業者が自分の経験をもとに、若い農業者へ助言を行ったり、これまで苦労したことや日常生活の愚痴を話題にするなど、これまで接する機会のなかった若手農業者と交流することで、

幅広い仲間づくりにつながった。特に今年度開催した研修会は、コロナ禍で2年近く研修の機会が少なかった中での開催であったため、「もっと話をしたかった。」「時間が足りなかった。」などの意見が聞かれた。さらに研修後のアンケートでは、今後も交流会の開催を希望する者が大半で、人とのつながりを求める農業者が多かったことから、コロナ禍で開催した研修会の意義は大きかったと考えられる。



オンラインを利用した研修会

●今後の普及活動の課題

今後の農業経営において、産直・直販、6次産業化など、女性ならではの感性や視点を生かした幅広い取組で農業経営を発展していくことは重要であり、女性農業者のスキルアップや女性が働きやすく活躍しやすい環境づくりを継続して支援していく必要がある。

また、地域で活動している女性グループにおいては、後継者不足となっているところが多く、新規会員の確保・育成が課題となっている。交流会などを通じて、若い女性農業者に対しグループへの加入を呼びかけるとともに、新たなグループの結成や他の女性組織とのネットワークづくりについても推進する必要がある。さらに、女性農業者に限らず、他の小売業者や加工業者等の異業種との連携についても検討していく。

コロナ禍において、人を集めた研修会や飲食を伴うイベントの開催が難しく、女性農業者や女性グループ等の活動や交流機会が少なくなっている。今後はオンラインを活用した研修会やSNSを利用した農業者の情報発信など、コロナ禍後のことも考えた活動について検討し、女性農業者の経営参画や経営発展に向けた取組をより一層支援する。